

# てつものまち ぷろじえくと



NPO法人 テツプロ副理事長  
川原 隆幸

# 鉄への 挑戦

2004年の始めころ、輪西青年経営研究会のもとに、それ以前にも頂いたことのある「イベント開催の提案」が届きました。

「今年の秋に『たたらサミット』が室蘭で行われる。輪西は鉄の街だから、研究会も何か盛り上げることをしないか」という話でした。

「たたらサミット」とは、砂鉄から鉄を造る「たたら製鉄」をテーマに、講演会やコンテストを、鉄にゆかりのあるまちで開催する全国規模のイベントです。

この2年前に創立40周年を迎えており、その際近年の活動内容を省みて、何か新しいことに取り組もうという機運が少なからずありました。当時の会長である伊藤さんは、会員の「やりたいこと」を積極支持という方でもあったので、「失敗を恐れずとにかく挑戦!」となりました。イベント開催だけで終わらずに、継続して取り組める、街の活性化に繋がるものにもしようと、この取り組みの発起人となりました。

そうして生まれた任意団体[てつのまちぷろじえくと](以下テップロ)は、立ち上げ当初から様々な人や団体、企業の協力を得、日々勉強の気概で活動を積み重ねていきます。

ヤアコ  
コエス月

鉄のく  
くんせ  
せい器  
をで  
作るコ



wanishi STUDIO





DRESS YOURSELF

# たたら サミット

By Marian Smith  
Photo by Jessica Lee

「鉄」で街の活性化を、といってもなかなか掴みどころがないので、思いつきでもいい、こじつけでもいいといった勢いに任せて、「たたらサミット」と同時開催のイベント「アイアンフェス」で色々な試みをしました。

小学生でも安全に体験できる溶接企画や、商店街じゅうに約30の鉄製のオブジェを展示した店先ギャラリー。空き店舗を活用しての物販コーナー「鉄子の部屋」、鉄分豊富な「鉄のもち」開発などなど。

5月の準備委員会から10月のイベント終了まで、私自身経験のないことの連続でしたが、ストレスよりも、充実感のほうが勝っていたような気がします。補助金申請や収支報告の書類を作成したり、といったことには苦しみつつも。

イベント終了後のテップロは、翌年のアイアンフェスタ実行委員会立ち上げまで何の活動もしませんでした。盛りだくさんのイベント開催が終わり一段落、そこから次のアクションを、とはなかなか行きませんでした。

# アイアン フェスタ

団体としての転機は、2回目のアイアンフェスタを終えたあと、若手で開いた反省会でした。文字通りの反省会となり、前述した、“イベント開催だけで終わらせず、継続して取り組める、街の活性に繋がるものに”という立ち上げ当時の気持ちに立ち返って、打ち上げ花火のイベントから通年の取り組みに、点から線に、と改めてモチベーションが上がっていきました。

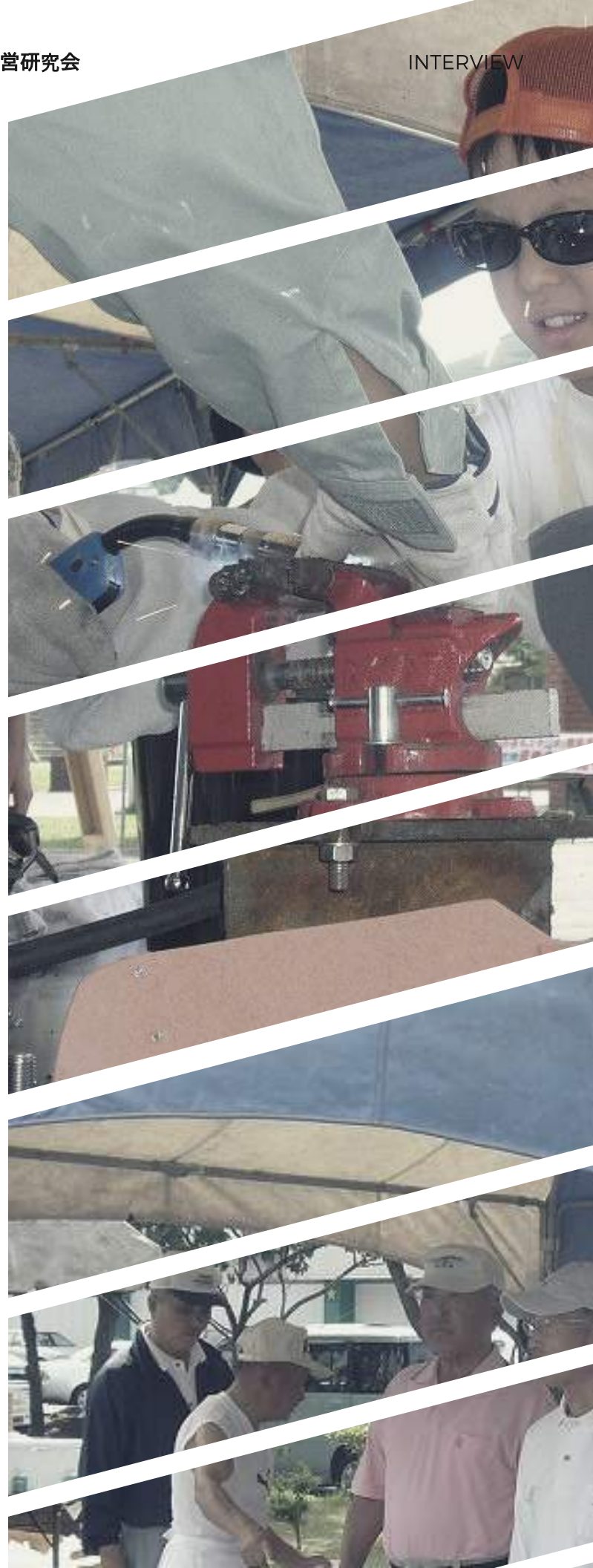
アイアンフェスタで人気のあった溶接企画は、参加者の皆さんがボルトやネジを曲げてくっつけて人形を作るというものでした。鉄の街ならではのグッズを作り販売しては、という話しのなかでこの溶接企画の人形が浮上してきました。

ボルト人形「ボルタ」はこの日の反省会から、商品として展開出来るものに向かって少しずつ少しずつ形になっていきました。

ボルタについては、テレビや新聞で繰り返し取り上げていただいたおかげで、工大生が試作品を作るところから名前の募集、授産施設への生産委託、工房オープンなど現在までの経緯をネット等で確認いただけます。

私自身 っているのは、全国至るところから、手紙が届いたり電話がかかってきたりし出したことです。結構な量でしたがその多くが室蘭出身で、ふるさとからの明るいニュースに嬉しくなって、というものでした。

人口が減り寂しくなっていく地元地域とは反比例して、全国には“元”室蘭市民が増え続けている。ボルタに反応してくれた“元”室蘭市民の方々からのエールや、発注の数々はとても心強く感じました。

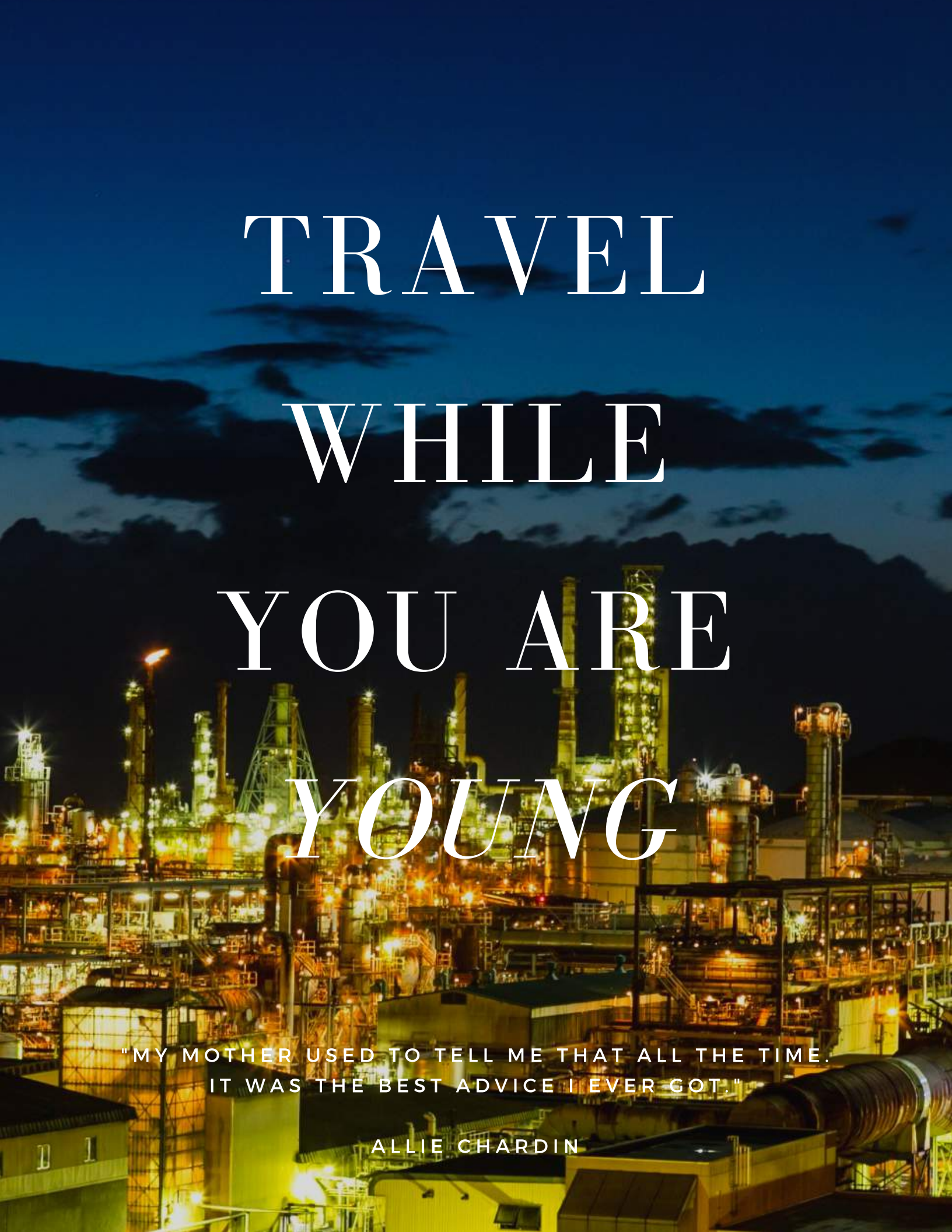




# 更なる 発展へ

テツプロは2011年にNPO法人化申請・認証を経て、2012年5月、任意団体からの移行を終えNPO法人テツプロとして新たなスタートを切りました。

運営や制作に携わる理事スタッフ、協力・支援を惜しまない皆様に支えられて、テツプロはこれからも試行錯誤を重ね、鉄の街ならではのトライを続けていきます。



TRAVEL  
WHILE  
YOU ARE  
*YOUNG*

"MY MOTHER USED TO TELL ME THAT ALL THE TIME.  
IT WAS THE BEST ADVICE I EVER GOT."

ALLIE CHARDIN